

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 006	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 家畜ふんたい肥の施用効果の検証試験	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】  ・令和6年度から三浦半島地域で、農業技術センター、畜産課、畜産技術センターが連携し、家畜ふんたい肥流通の円滑化を目的とした事業を実施している。その中で、耕種農家の高齢化や担い手不足により、家畜ふんたい肥の運搬・散布に労力をかけられないため使用を中止し、散布のしやすさ等から混合堆肥複合肥料を使用する方も多いが、長年家畜ふんたい肥を使用しない事で土づくりに不安を抱える生産者も多いと聞く。 ・そこで、耕種農家に対し、長年家畜ふんたい肥を施用していない事で起きている事項を明らかにするとともに、家畜ふんたい肥の施用により改善できる事項（例：土壌の化学性・物理性・生物性の改善効果等）を検証して頂きたい。併せて、耕種農家が施用する際の家畜ふんたい肥の選定に資するため、家畜ふんたい肥の畜種や製造過程等による違いにより適する施用方法や作物等についても検証頂きたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) Ⅲ-1(1)イ(ア) c 有機物連用試験		
対応の内容等	長年家畜ふんたい肥を施用していない事で起きている事項、家畜ふんたい肥の施用により改善できる事項の検証については、必要に応じて過去の試験データより情報提供します。このデータを踏まえ、県内で発生した家畜ふん堆肥の施用で試験する必要がある場合には、畜種と製造過程が異なる数種の家畜ふん堆肥を用いた施用試験の実施を検討いたします。その際の家畜ふん堆肥の収集については畜産技術センターで御協力をお願いします。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考 主な家畜ふん堆肥の窒素肥効とその有効利用方法(岐阜県農業技術センター) <a href="https://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/taihi_manual/documents/how_to_use.pdf">https://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/taihi_manual/documents/how_to_use.pdf</a> (参照 2025-10-03) 有機栽培下における主要畑作物の生育、収量と地力の変化(鹿児島県農業試験場) (森ら. 九州農業研究. 九州農業試験研究機関協議会, 1992, 54号, P. 54-54. )			